

3 交流に関する施策

(1) 交流の推進 ○ ○ ○ ○ ○

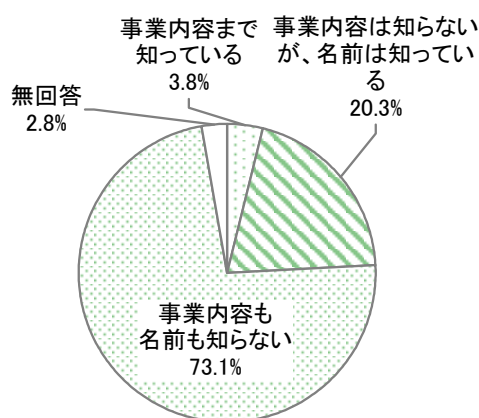
【現状と課題】

- 平成28年（2016年）9月に実施したアンケートの結果からアグリライフ支援センターの事業内容を知らない人が9割以上、名前も知らない人が7割以上となっています。また、農作業やその体験などを行ったことがない人が約5割と農業への理解が充分とはいえない状況にあります。
- 各種イベントにおける地元農産物の販売や子ども向けの紙芝居、学校給食における地元農産物の利用促進など、「農」とのふれあいや学びの場の提供は、継続して行う必要があります。
- 市民と農業者その他の組織間の交流は、農業が支える安全・安心な暮らしづくりを推進するための相互理解及び連携を深める上で、必要となってきました。

【施策の目指す姿】

- 地元産の旬な農産物や給食への使用情報、日本デンマークの伝承などの情報発信を積極的に行っていくことで、市民に農業への理解が深まっています。
- 地元農産物をお互いの顔が見える関係で販売している産地直売所や、農業体験、イベントを通して、農業者と消費者との交流が活発に行われています。

アグリライフ支援センターの認知度



N = 818

資料：第2次安城市食料・農業・交流基本計画策定に係る市民アンケート調査（平成28年9月）

【 施策の内容 】

ア 農業への理解の促進

○ 個別施策

施策名	施策内容	担当課
①安城の旬な農産物の情報発信	JA及び市のウェブサイトから、四季を通じて安城の旬な農産物の情報を発信します。 特産品を使った食育*イベント等の記事についても掲載し、特産品の普及に努めます。 また、特産品に関するチラシを作成し、産直店舗で配布します。	農務課
②学校給食における地元農産物使用情報の発信	毎月の献立表に、給食に取り入れた地元農産物の情報を掲載しています。 また、ウェブサイトを利用した情報の発信も行っています。	総務課 学校教育課
③企画展等の実施	日本デンマーク伝承のための企画展等を市の歴史博物館で随時開催します。	文化振興課

○ 成果指標と目標

指標名	現状値 (2015年度)	目標値 (2021年度)
ウェブサイト等からの情報発信回数	13回	20回
指標の説明		
JA及び市のウェブサイトから発信した、安城の旬な農産物の情報及び特産品を使った食育*イベント記事の掲載回数です。		

【 コラム 】 地産地消*の日について

「地産地消*」とは、地域で生産されたものを地域で消費する取組のことをいいます。
市では、毎月第4土曜日を「地産地消*の日」とし、「安城を食べよう！」をキャッチフレーズに、地産地消*を積極的にPRし、健康的な食生活の実現とともに農業の振興を図っています。



イ 農業者と消費者等が交流する機会の確保

○ 個別施策

施策名	施策内容	担当課
① 農業者と消費者の交流機会の創出	地産地消 [*] の日（毎月第4土曜日）に開催するまちなか産直市 [*] を支援します。 また、アンフォーレ [*] にて食と農に関するイベントを開催し、生産者と消費者の交流の場や顔の見える関係づくりの場を設けます。	農務課
② 「農」のある暮らしの普及促進	アグリライフ支援センターにおいて、野菜作り講座や植付・収穫体験等を開催することにより、家庭菜園などで日常的に「農」を楽しむ人づくりを進めます。 講座を修了した人材の活躍の場となるよう、講座や農業体験の拡充を図るとともに、「農」に関わる人材の相互交流について検討します。 農作業や野菜作りの体験を通して、「食」と「農」への理解の促進を図るとともに、市民と農業者とのふれあいや市民の健康づくり・生きがいづくりを促進します。	農務課
③ 農業体験の実施	小中学校や幼稚園・保育園において、保護者や地域の方々を招き、野菜作りやバケツ稲作りなどの農業体験活動を行います。	子ども課 学校教育課

○ 成果指標と目標

指標名	現状値 (2015年)	目標値 (2021年)
産直市等の開催回数	10回	12回
指標の説明		
<p>現在は、農村生活アドバイザー[*]による「まちなか産直市[*]」を年10回開催しています。 指標は、その「まちなか産直市[*]」のほか、今後新規で開催する予定の食と農に関するイベントを含んだ開催回数となります。</p>		

【コラム】 アグリライフ支援センターについて

「アグリライフ支援センター」は、市民が「農」を楽しむまちづくりを目指す「安城アグリライフ構想【平成20年度（2008年度）～29年度（2017年度）】」を総合的に推進し、「農」ある暮らしを実践する拠点施設です。

アグリライフ支援センターでは、各種講座を行っており、一つの例として野菜づくり「入門コース」を開催しています。入門コースでは、一人ひとりに割り当てられた畑で実際に野菜を作り、基本的な農作業を実践形式で行います。また、座学では虫や病気に対する防除・対処方法などを学びます。



大根の間引きと土寄せの様子

その他にも、一坪の畑で野菜づくりを体験する「一坪農園」という講座もあります。「坪」は広さの単位で、1坪は大体3.3㎡で畳2畳ほどの広さです。平成26年（2014年）9月から始まった講座で、縦1メートル、横3メートル強に区切った畑で野菜を作ります。野菜づくりビギナーの方でも楽しめる講座です。



トウモロコシの肥料やりと土寄せの様子

また、ミニトマトプランター植付体験、親子さつまいも植付・収穫体験、親子秋ジャガ植付・収穫体験など豊富な講座が開催されており、誰でも気軽に学ぶことができます。

(2) 広域的な交流 ○ ○ ○ ○ ○

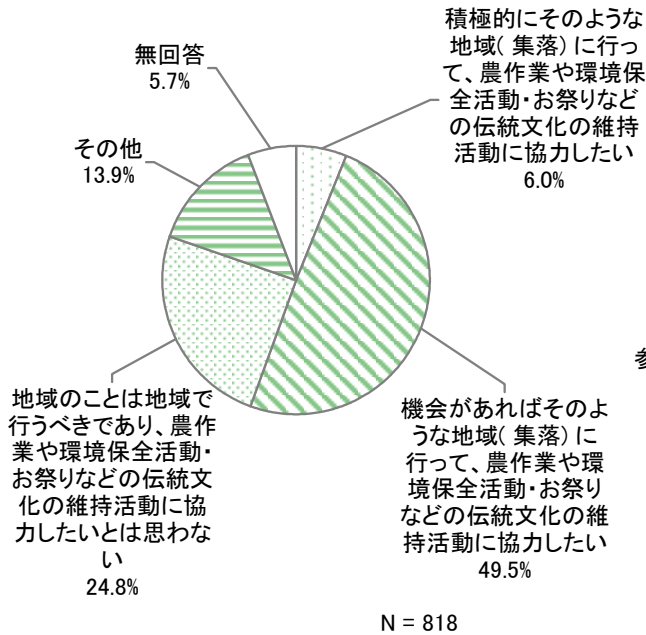
【現状と課題】

- 平成28年(2016年)9月に実施したアンケート結果から、今後、農村地域に行って、農作業や環境保全活動・お祭りなどの伝統文化の維持活動に協力したい人が5割以上となっています。また、地域づくり活動(耕作放棄地[※]での農作業、農業研修等の都市・農村交流など)については、6割の人が参加意向を持っています。
- 市民に対し、市の農業への理解促進を図るため、食料・農業・交流に関する情報を発信していく必要があります。

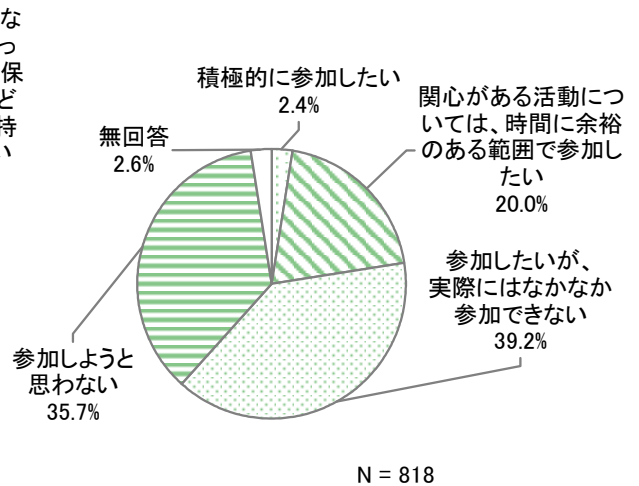
【施策の目指す姿】

- ふれあい田んぼアート[※]の実施により、農業者と市民、市外の方とも交流が深まり、さらには日本デンマークといわれた安城を広くPRされています。
- 市内の観光資源と農業資源を結びつける観光ルートづくりを推進し、広域的な交流が図られています。

農村地域への関わり方



地域づくり活動への参加意向



資料：第2次安城市食料・農業・交流基本計画策定に係る市民アンケート調査(平成28年9月)

【 施策の内容 】

ア 広域的な交流の推進

○ 個別施策

施策名	施策内容	担当課
①ふれあい田んぼアート*の支援	日本デンマークと呼ばれた安城のPRと広域的な交流を目的とし、地元農業者等が行うふれあい田んぼアート*の開催を支援します。	農務課
②地域の観光・農業資源をつなぐ観光ルートづくり	観光協会、観光施設と連携を図りながら、市内に点在する観光資源と市内の農業（産業）とを結びつける観光ルートづくりを検討します。	商工課

○ 成果指標と目標

指標名	現状値 (2015年度)	目標値 (2021年度)
ふれあい田んぼアート*の申込者数	837人	900人
指標の説明		
ふれあい田んぼアート*のうち、一般参加が事前申込制となっているイベント（平成28年度（2016年度）現在では「田植え」と「稲刈り」）の申込者の合計数です。		

【 コラム 】 田んぼアートについて

「田んぼアート」とは水田をキャンバスに見立て、色の異なる稲を使って巨大な絵を描き出すアートのことです。

市では、観光スポットとしてはもちろんのこと、生産者と消費者が、一緒に楽しめる活動を通して交流し、顔の見える、心の通った食と農の信頼関係を築くこと等を目的として事業を展開しています。

平成19年（2007年）から毎年、地元農業者等からなる実行委員会が事業に取り組んでいます。



平成27年度（2015年度）の田んぼアート